

シンポジウム趣旨

Symposium Introductory Remarks

福田美雪

Miyuki FUKUDA

それでは時間となりましたので始めます。本日はお忙しい中、Zoom でも対面でも、多くの方々にご参加いただき、ありがとうございます。2022 年度青山学院大学文学部附置人文科学研究所主催『人文学の挑戦 近現代のマイノリティ文化をめぐって——5つの視点から読み解く世界の陰影』シンポジウム、本日の司会進行を務めます、青山学院大学文学部フランス文学科所属の福田美雪です。開会に先立ちまして、本学文学部長伊達直之先生より、最初のご挨拶をいただきます。伊達先生、よろしくお願いいたします。[中略]

伊達先生、どうもありがとうございました。それでは、本日の流れを私からご説明いたします。ポスター記載のプログラムに一部変更があることをご了承ください。前半は、英米文学科の来馬哲平先生、そして日本文学の戸塚学先生にご発表いただき、質疑応答の時間を設けてから 15 分休憩を取ります。後半は史学科の稲垣春樹先生、フランス文学科の私、福田、現代美術史の松井裕美先生の 3 名が発表いたします。ここで 2 度目の休憩を取って、質疑応答とディスカッションの時間を改めて設けます。第 1 部が文学パート、第 2 部が歴史パートという流れになります。

質問については、この場にいらっしゃる方には、アンケート票を兼ねた質問用紙をお配りしています。Zoom 参加の方々には、Google 質問フォームをお送りしています。質疑応答の時間に取りまとめて、登壇者の方々にお答えいただきます。それでは私から手短に、シンポジウムの趣旨と登壇者の先生方をご紹介します。

まず、ポスターに載せた図版をご覧ください。こちらは 18 世紀中頃に、フランスの地図製作者、J.-B. ノラン（Jean-Baptiste Nolin le fils, 1686-1762）が描いた世界地図なんです。まるでフランス啓蒙主義の時代を象徴するかのような、西欧の視点から見た世界地図で、とても平面的ですが、未知の領域をどんどん開拓して全てを既知の世界に変え、西欧の思想と価値観で覆ってゆくという、後の植民地主義・帝国主義を予告する世界観をよく表した図版だと思います。本シンポジウムは、こうした歴史の流れをある種問い直す意図によって、『人文学の挑戦：近現代のマイノリティ文化をめぐって——5つの視点から読み解く世

界の陰影』というタイトルをつけました。要するに、征服していない領域がない、全ては人類の知るところだという普遍的な「知」の支配に抗う形で、人文学がそれぞれの領域で発展してきたのではないかという問いかけです。登壇者おのおのに、異なる視点や学びと研究の歩み、問題関心の領域があるわけですが、本日はこの図版には表れてこないような微細な世界の陰影、正史と呼ばれる歴史には記されてこなかったもの、そこからこぼれてしまったものをすくい取るという5つの試みをしていきたいと思います。

では、ご発表順に先生方のご紹介をいたします。まずお一人目は、本学英米文学科の来馬哲平先生です。ご専門は20世紀のアメリカ詩、特に詩人ハート・クレインを中心に、モダニティ文学とアメリカの詩的テキストの非常に丹念で緻密な読解に取り組んでいらっしゃいます。お二人目が武蔵大学人文学部の戸塚学先生で、ご専門は日本近代文学です。特に堀辰雄を中心とする1920～30年代のモダニズム文学を研究されています。近年比較文学の領域でも活躍され、共編著『世界文学アンソロジー いまからはじめる』、『人文学のレッスン』などで、多分野の研究者をつなげる試みをなさっております。3人目の登壇者は本学史学科の稲垣春樹先生です。ご専門は19世紀のイギリス帝国史、特にイギリス領インドとジャマイカを事例として、司法が植民地の政治に果たした役割を研究していらっしゃいます。本シンポジウムの関心とともとりわけ重なる領域だと思います。それから東京大学教養学部の松井裕美先生です。ご専門は20世紀フランス美術史、特にピカソとキュビズムをご専門とされ、プロフィールからも明らかのように、たいへん精力的に国内外でご活躍されております。最後に私、福田美雪です。近代フランス文学、とくに19世紀のエミール・ゾラという自然主義作家を中心に研究しております。

それでは、そろそろ時間となりましたので、第1発表に移りたいと思います。まず来馬哲平先生、「“After Hours”—クアな詩の時間たち」と題してご発表いただきます。それでは来馬先生、どうぞよろしくお願いたします。

青山学院大学文学部附属人文科学研究所主催シンポジウム

UNIVERSITÉ DE LA SAINTE-TRINITÉ



人文学の挑戦

近現代のマイノリティ文化をめぐって
～5つの視点から読み解く世界の陰影～

2022年12月7日 (水) 13:20～17:30 (13:00開場)

青山学院大学 青山キャンパス 17号館17309室／オンライン開催

シンポジウム登壇者

来馬哲平 (青山学院大学准教授)
“After Hours”—クアな詩の時間たち

福田美雪 (青山学院大学准教授)
19世紀フランスのジャーナリズム—ドレフュス事件をめぐって

戸塚学 (武蔵大学人文学部准教授)
少女小説の陰面—尾崎翠『第七官界彷徨』

稲垣春樹 (青山学院大学准教授)
19世紀イギリス帝国におけるマイノリティと法

松井裕美 (東京大学教養学部准教授)
表現主体としての女性とリアリズム

オンラインでの参加方法



<https://docs.google.com/forms/d/6f13A9p2L5u8lCvmh2Nc0S23w0D0oq6wvJIMcm9ja-74FhushA/viewform>

※対面・オンラインのハイフレックスでの実施になります。対面で参加される場合は予約不要、オンライン参加の場合のみ、11月30日(木)17:00までに、上記のURLからお申し込みください。開催日が近づきましたら、URLをお送りします。

主催：青山学院大学文学部附属人文科学研究所 お問い合わせ：agu-jinbu@soyomaga.ac.jp